

注文の多い展覧会

美術館を味わう

2025.6.10 TUE → 7.13 SUN

9:30-18:00 (入館は17:30まで)

休 日 月曜日 (祝日の場合は翌平日)

観 覧 料 一般300円、高校生200円、小学生150円

※ 観覧料は所蔵品展と共通。年パスポートでもご覧いただけます。

※ 毎月第3日曜日は小・中学生の所蔵品展・小企画展の観覧料が無料です。

〒892-0853 鹿児島市城山町4-36 TEL.099-224-3400
<https://www.city.kagoshima.jp/artmuseum/>

鹿児島市立美術館 KAGOSHIMA CITY MUSEUM OF ART

美術館を味わう 注文の多い展覧会

2025 6/10(火) ~ 7/13(日)

美術館なのに注文が多いとはいったいどうい
うことなのでしょう。とても人気のある展覧
会ってことなの？それとも、作品を貸して欲し
い人が殺到する展覧会ってことなの？

この展覧会は、宮沢賢治の『注文の多い料理
店』のように、恐ろしい山猫に食べられてしま
いそうになることはありませんのでご安心くだ
さい。

「注文の多い展覧会」では、心優しい山猫が、皆さんにさまざまなお願いをしながら、作品を楽し
むお手伝いをしてくれます。「絵をじっくり見てこの作品にぴったりのタイトルを考えてみるニャン」、
「お話をヒントに、絵の中で何がおきているか考えてみるニャン」など。ちょっとお節介りに感じるか
もしれませんが、作品に添えられた注文書（お願い）に応えながら会場をめぐることで、美術館がは
じめの方や、新たな見方をしてみたい方に、美術館をもっと楽しむヒントをお届けする展覧会です。
心優しい山猫と一緒に鑑賞の冒険に出かけてみませんか。

2025年 初夏号
No.33

市美だより

鹿児島市立美術館 | KAGOSHIMA CITY MUSEUM OF ART

発行 鹿児島市立美術館

〒892-0853

鹿児島市城山町4番36号

TEL(099)224-3400



初夏の所蔵品展 (西洋美術+郷土作家+特集コーナー)

ミニ特集：令和6年度新収蔵作品Ⅰ

山下兼秀、寺尾作次郎を中心に 会期：7

作品収集は美術館の最も重要な活動の一つです。今年度の所蔵品展では、令和6年度に寄贈を受けて収蔵し
た新たな作品を、初夏と秋の2回に分けて紹介します。Ⅰ期は洋画の山下兼秀と染織・工芸の寺尾作次郎を中
心に、山下巖、福田美蘭の作品に関連する参考作品も交えて展示します。貴重な作品や資料をご寄贈いただ
いた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。様々なご縁で当館に集まることとなった新収蔵品を、この機会
にどうぞお楽しみください。

Ⅰ期で紹介する作品・資料

【絵画：6点】

- ・山下兼秀《空》《サボテンの花》《窓の少女》（油彩画）
- ・山下 巖《桜島（城山公園より）》《桜島溶岩》（日本画）
- ・福田美蘭《「南日本新聞」2024年1月1日》（版 画）

【工芸：2点】

- ・寺尾作次郎《鶏と鶏頭花屏風》（染織）《貼付獅子文革壺》（皮革工芸）

【資料：2点】

- ・内山一観ポートレート
- ・寺尾作次郎 スケッチブック

※寺尾作次郎の作品・資料は回廊の工芸コーナーで展示しています。

Ⅱ期のご案内 9月17日(水)～11月16日(日)

秋の所蔵品展 令和6年度新収蔵品Ⅱ「藤山ハンの世界」
人形をモチーフにしたシリーズなどで独自の世界を描き続ける
本市出身の画家・藤山ハンの作品を特集します。



山下兼秀
《窓の少女》



寺尾作次郎
《鶏と鶏頭花屏風》

マリイ・ローランサン《マンドリンのレッスン》
1923年、油彩・キャンバス、縦80.3×横65.2cm



《ピックアップ》所蔵品紹介

グレーの濃淡で表されたクールな面ざしの少女た
ち。そこに、パステルカラーのドレスやリボンが、
彩りと甘さを添えています。ローランサンの代名詞
といえる色使いで描かれた本作は、楽器を奏する女
性像という古典的なテーマながら、モダンな雰囲気
が感じられます。

パリに生まれ育ったローランサンは交流があった
パブロ・ピカソらの前衛的な表現に影響を受けなが
ら、繊細なタッチと洗練された色彩によって、独自
の画風を確立しました。その画風は同時代の上流階
級の女性たちを魅了し、ローランサンは1920年
代、多くの肖像画を依頼される社交界の花形画家と
なります。当時フランスに留学していた鹿児島出身

の画家・東郷青児も、彼女のどこか憂いを帯びた画風を愛好しました。

ローランサンはその後、舞台美術や室内装飾、本の挿絵など、絵画にとどまらず様々な活動を展開し
ていきます。夢見るような女性像を生涯にわたって描き続け、1956年にパリで没しました。葬儀には
長年友情を育んでいた藤田嗣治も参列しています。

鹿児島市立美術館の所蔵品展では本作と共に、ピカソや藤田、東郷ら同時代のパリに生きた画家たち
の作品も展示しています。それぞれの個性豊かな表現を見比べてみてください。